

テーマ

# 学校から社会へ…

## 子ども、若者を支える居場所と仲間



参加費 無料

講師 **南出 吉祥さん**

岐阜大学地域科学部

日時/場所

‘10年**9月26日(日)** 午前**10時30分**～

**岐阜市北部コミュニティセンター**

岐阜市八代1丁目11番13号(TEL:058-233-2110)

### よびかけ

いじめ、不登校とひきこもり、非行、さらにはいわゆる軽度発達障害など、子どもたちをめぐる困難は、複雑かつ重層的になっている。しかも格差と貧困の広がりも、そうした困難を抱えた子どもたちに追い打ちをかけ、将来に「希望」すら持てない子どもや、時には「命」すら脅かされる虐待など深刻な困難を生み出している。

今、子ども支援に関わる私たちに求められているのはワン・ストップ・センターである。つまり、ここに来さえすれば、その後の多様なサポートの入口になるという場である。行政が教育、福祉、保健などのいわゆる縦割りの壁を十分に越えた支援に踏み出せない中で、まずは民間において総合的、包括的支援の形を模索したいと思う。この連続講座は、その模索の第一歩である。

今年五月に岐阜大学の教員として赴任してきた南出さん。ただの研究者ではない。これまで学校外で子ども、若者を支援する現場で活動されてきた「現場の人」であり、支援の場をつくりだす「運動家」でもある。何よりも若い。まだ32歳。一見すると「どこのフリーターか、いや、まだ学生か」と見間違えてしまう。これまで何度も語りあい、酒も一緒にしたが、彼の視点、感覚は、私たちのそれととても近く、しっくり重なる。そして、子どもたちが抱える困難を理解し、彼らの求めるニーズを把握し、支援課題を提示してくれる。私に関わるNPO法人仕事工房ポロや「べんぼすた」についても、いくつも大切な示唆をいただいた。

今回は「総合的、包括的支援」という私たちの取り組みの方向を考える上でまたとない機会である。今日、「学校」から「社会」へのつながりが崩壊してきた中で、子どもたちの生きづらさ、未来への漠然とした不安、そして、それらが重なり合う困難さを理解し、彼らを支える「居場所」と「仲間」のもつ意味と意義を考えてみたい。子ども、若者に関わる大勢の人の参加をお待ちしている。(中川)

### 地域で支える子ども・家庭プロジェクト

#### ◆主催及びお問い合わせ

事務局: **NPO法人ぎふNPOセンター**

Tel 058-275-9739 FAX:058-275-9738

〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-12

岐阜県シンクタンク庁舎内

Mail: gifu@npo-jp.net

“連続講座”についてのお問い合わせは、

携帯 **080-2625-1471** までどうぞ

担当 **中川 健史**(NPO法人仕事工房ポロ)

#### ◆運営協力

**NPO法人仕事工房ポロ**

Tel 058-337-0701 Fax:058-337-0728

〒502-0817 岐阜市長良福光2658 ふれあいの家・長良



**会場 岐阜市北部コミュニティセンター**

岐阜市八代1-11-13 (Tel 058-233-2110)

